

#### ・北半球でインフルエンザの流行が拡大

北半球は冬の季節を迎え、各地でインフルエンザの流行が報告されています(WHO Influenza HP 2013-1-18)。米国やカナダでは昨年12月より流行が発生していましたが、1月中旬までに流行はピークに達した模様です。患者の発生数は米国では例年並みですが、カナダでは例年より増えています。ヨーロッパでは北部や西部を中心に1月から患者数が急増しており、とくにノルウェイでは大きな流行になっています。中国でも北部を中心に流行が拡大しています。日本でも1月第3週で定点医療機関からの報告数が22になり、本格的な流行が始まりました(厚生労働省 2013-1-25)。

海外旅行中は航空機やバスなど狭い空間で過ごす時間が長くなるため、インフルエンザに感染するリスクが日常生活よりも高くなります。このため、この時期に北半球を旅行する方にはインフルエンザワクチンの接種を推奨しています。

#### ・鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者数は減少傾向

WHOの報告によれば、2012年は全世界で32人の鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者が確認されました(WHO Global Alert and Response 2013-1-16)。2011年の患者数は62人であり、約半分に減少しています。患者数の多い国はエジプト、インドネシア、ベトナムでした。また死亡者数は20人で、依然として高い致死率(62.5%)を保っています。なお、2013年1月にカンボジアで新たに3人の鳥インフルエンザ患者が発生し、うち2人が死亡した模様です(Pro MED 2013-1-25)。

#### ・カリブ海諸国でのコレラ流行

カリブ海のハイチでは2010年10月よりコレラの流行が発生しており、2012年の年末までに患者数は63万人に達しました(厚生労働所検疫所 HP 2013-1-16)。患者は5月～10月の雨季に多く発生しており、今年もこの時期には要注意です。なお、隣国のドミニカでも流行発生以来、3万人近くの患者が確認されています。キューバでも昨年はハリケーンの影響などで500人の患者が発生しましたが、今年は1月から首都ハバナを中心に流行が発生している模様です(外務省海外安全 HP 2013-1-21)。

#### ・アルジェリア渡航後に回帰熱を発病した患者

アルジェリア渡航後に回帰熱を発病した患者(20歳代)が日本国内で発生しました(感染症発生動向調査週報 2012年第51号)。回帰熱はスピロヘータによっておこる病気で、ダニやシラミが媒介します。高熱を繰り返し、致死率は数%～30%になります。治療にはテトラサイクリンなどの抗菌薬が有効です。流行地域は南北アメリカ、アフリカ、中東などで、日本でも2010年にウズベキスタン渡航後に発病した輸入例が報告されています。今回の事例は最近では2例目の輸入例になります。流行地域に滞在中はダニやシラミに刺されないように注意することが必要です。